

電源開発株式会社
代表取締役社長 社長執行役員
加藤英彰様

石炭火力発電「GENESIS松島」計画の見直しに係る要望書

国際環境NGO 350.org Japan
国際環境NGOグリーンピース・ジャパン

代表取締役社長への就任、誠におめでとうございます。
私たちは、気候変動・エネルギー問題の解決をめざす市民団体です。

さて、長崎県西海市における石炭火力発電設備の増設計画「GENESIS松島」について、このほど新しく代表取締役社長に就任された加藤社長が「オンスケジュールを進めるとコストがかなり割高になる」などを理由にあげ、見直すと表明されたとこれまでに報じられています。

日本政府もカーボンニュートラル宣言をして久しく、COPで「化石燃料からの脱却」、「再エネ設備容量3倍」が合意されています。IGCC技術を用いたとしてもCO2排出量が多い石炭火力発電設備を新たに10万kW増やすこと、これと併せて1981年に運転開始した旧式の超臨界圧の石炭火力発電40万kW相当が維持されることに、極めて大きな環境上の懸念があります。IGCCに加えCCUSをめざせばますますコストは高くなり、経済合理性に疑問符がつきます。さらに、燃料の輸入を海外に頼り続けることにはエネルギー安全保障のリスクもあります。

「再生可能エネルギーのトップランナー」を謳う貴社にとって、そして持続可能な経済社会の発展をめざす地元地域にとって、より望ましいのは持続可能な再生可能エネルギーであるはずで
「GENESIS松島」計画の見直しにあたっては、石炭火力発電の脱却を進めるため同計画を中止し、再生可能エネルギーへの公正な移行を進めるご決断をお願い申し上げます。

以上